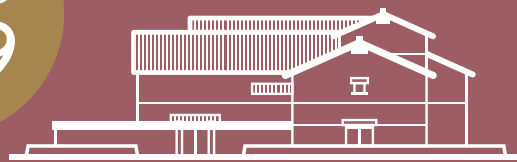


立区立 立館 足立博物館 だより

2025
No.79



美術博物館へ

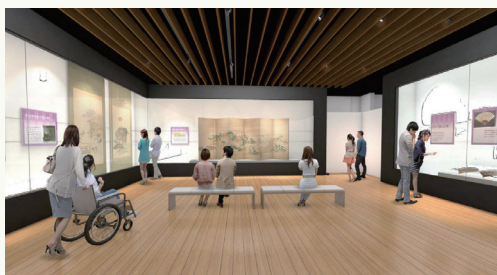
令和7年4月26日（土）、二年以上にわたる休館を経て、足立区立郷土博物館は、いよいよリニューアルオープンの日を迎えます。

休館中は空調などの設備改修工事に加え、平成21年以来、十六年ぶりに常設展示の改修を行いました。新しい常設展示のコンセプトは「郷土資料館から『美術博物館』へ」です。

当館では、十年以上にわたり、足立の美術・文化資料の重点調査を行ってきました（文化遺産調査）。その過程で、足立には数多くの価値ある美術



▲新設した美術展示スペース（イメージ）



▲美術館仕様となる企画展示室（イメージ）

作品が遺されていることが明らかにまりました。専門家から「足立は『美』と『知性』の宝庫」と評価され、歴史ある美術雑誌『國華』で「千住・足立の文化遺産」特集が組まれるなど、足立の美術文化に注目が集まりはじめているのです。これを受け、今回の改修では、新たに美術分野の常設展示スペースを設けることとしました。

これまで当館の常設展示では、歴史・民俗という二つの視点から足立を紹介してきましたが、ここに美術という視点を加えることにより、豊かな足立の文化をより広く、多角的に紹介できるようになります。

なお、美術分野のみでなく、歴史・民俗分野の展示も、さらに皆様にお楽しみいただけるようアップグレードを行っています。

郷土博物館 リニューアルオープン！

初披露



▲村越向栄「四季草花図屏風」 当館蔵

「千住・足立の文化遺産展（前期） 香りたつ琳派の美」にて初披露

美術館仕様に生まれ変わった企画展示室では、「千住・足立の文化遺産展（前期） 香りたつ琳派の美」を開催します（令和7年4月26日（土）から令和7年6月29日（日）まで、後期は令和8年2月14日（土）から令和8年4月12日（日）まで）。今回初披露となる村越向栄作の屏風をはじめ、千住・足立に根付いた琳派絵師たちの作品を中心に展示し、リニューアルオープンを華々しく彩ります。

オープン初年度となる令和7年度は、年間を通して、様々な展覧会やイベント、ワークショップを開催していく予定です。

皆様のご来館を、心よりお待ちしております。

足立から世界へ！博物館が誇る浮世絵たち

足立区立郷土博物館では、1000点を超える浮世絵版画を収蔵しています。

当館の浮世絵コレクションの特徴は、時代の幅が広いことです。江戸時代中期の初期浮世絵、木版多色摺の時期の作品から明治時代の作品まで、幅広い年代の作品を所蔵しています。その中には、鈴木春信や喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重などの人気絵師の作品も含まれ、他の博物館や美術館から貸し出し依頼を受けることも多くあります。

令和7年度は、約260点の浮世絵が日本国内外の博物館や美術館に出張する予定です。どのような作品がどこで展示されるのか、一部をご紹介します。

海を越え 台湾へ

令和7年5月には、歌川広重《両国納涼大花火》をはじめ、約20点の浮世絵が海を越え台湾へと向かいます。行き先は、国立故宮博物院南部院区。台北市にある国立故宮博物院の新館として、2015年、太保市に開館した博物館です。アジア芸術・文化をテーマとした博物館で、国際的にも高い評価を得ており、日本美術・文化の展覧会も定期的に開催されています。



▲歌川広重 《両国納涼大花火》

当館所蔵の浮世絵は、展覧会「江戸浮世之美」にて展示されます（会期 5月30日（金）から8月31日（日）まで、展示替えあり）。当館の浮世絵やその他の資料を通して、江戸時代の人々の生活や文化について紹介する展覧会となります。



▲故宮博物院南部院区ホームページはこちら

小布施・北斎館で

「足立区立郷土博物館所蔵 浮世絵名品展」

国内では、約240点の浮世絵が長野県に向かいます。行き先は、北斎館。江戸の浮世絵師・葛飾

北斎が晩年滞在し、作品を多数制作したといわれる長野県小布施の地で、昭和51年（1976年）に開館した美術館です。北斎が天井絵を描いた祭屋台や肉筆画など、北斎作品を多数所蔵、展示しています。

北斎館では、当館のコレクションに焦点を当てた展覧会「知られざる秀逸コレクション 東京・足立区立郷土博物館所蔵浮世絵名品展」が開催されます（会期 5月24日（土）から10月5日（日）まで、展示替えあり）。国内外に数点しか現存していない、歌川国芳の希少な浮世絵《竹沢藤次 独楽の化物》をはじめ、当館所蔵の浮世絵の中でも選りすぐりの作品たちが展示されます。足立区立郷土博物館の「秀逸コレクション」の魅力をつぶりとお楽しみいただける展覧会です。

当館においても、今回ご紹介した博物館・美術館とのコラボレーション企画を開催予定です。詳細が

決まり次第、当館ホームページやあだち広報などでお知らせいたします。どうぞ楽しみに！



▲歌川国芳 《竹沢藤次 独楽の化物》



▲北斎館ホームページはこちら

せんじゅじゅく 千住宿 開宿から400年

寛永2年（1625年）に誕生した千住宿は、令和7年（2025年）に開宿400年という大きな節目を迎えます。

足立区では、一年を通して千住宿に関連した様々な催しを予定しています。当館でも、今秋、特別展「千住宿400年」と題し、開宿から現在に至る千住宿400年間の歴史を、古文書や美術作品など多彩な資料と共にご紹介する展覧会を開催します。

宿場町として

栄えたまち、千住

千住宿とは、江戸（日本橋）と東照宮（日光）を結ぶ「將軍家の参道」として整備された日光道中最初の宿場（初宿）です。

江戸から延びる幕府直轄の主要な5つの街道（図1）である「五街道」のうち、2つの街道（日光道中・奥州道中）が通り、江戸四宿（五街道の各初宿）の中でも最大の宿場として栄えていました。

▼図1 五街道一覧

街道名	初宿	終点
日光道中	千住宿	日光
奥州道中		白河
東海道	品川宿	大坂
中山道	板橋宿	草津
甲州道中	内藤新宿	下諏訪



▲千手観音 御前立 / 勝専寺
千住の地名の由来となったとされる秘仏・千手観音の参拝のための仏像。

現在では、江戸時代から続く千住の旧家や寺社で大切に受け継がれてきた民俗資料や美術資料が次々と見つかる一方、家屋の取り壊し、建て替えなどで宿場時代の面影がまちから徐々に失われつつあります。

本展覧会では、千住の地が宿場となった理由からその後の繁栄、教養豊かな商家を中心に宿場の人々が築いた独自の文化や宿場の名残を残す現代の姿に至るまで、千住宿の400年をご覧いただけます。記念グッズも制作予定です。ぜひ博物館まで足をお運びください。

特別展

「千住宿400年」

開催期間

令和7年10月21日（火）～令和8年1月11日（日）



▲千住宿400年記念ロゴ
千住宿開宿400年記念ロゴマーク。
足立区主催のイベントだけではなく、
どなたでも活用できる。くわしくは



▲掃部宿小型厨子（かもんじゅくこがたずし）当館蔵
千住掃部宿（現 千住仲町ほか）の若田家が保存していた厨子。
不動明王・石尊大権現を信仰する大山講で用いられ、お神酒を
入れた瓶子を運ぶために使用された。

千住・足立の文化遺産展

後期

開催期間

令和8年2月14日(土)～4月12日(日)

「千住・足立の文化遺産展」(前期)に引き続き、令和8年2月より、「千住・足立の文化遺産展」(後期)を開催いたします。

千住の人々の生活の中で受け継がれた、華やかな「琳派」作品をご紹介する前期に対し、後期は千住・足立の旧家が教養として絵を学んでいたことがわかる「谷派」「狩野派」の粉本(お手本)をはじめとした美術資料をご紹介します。



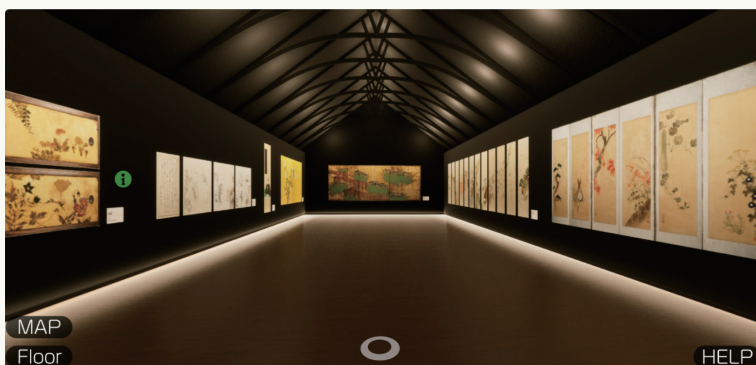
▲百獣図粉本(部分)(原本:狩野常信)
当館蔵 石出家資料

電子展覧会 リニューアル記念展

郷土博物館のリニューアルオープンに先立ち、展示作品の一部を先行公開する電子展覧会を開催します。

インターネット上のバーチャル空間で作品を鑑賞できる電子展覧会では、実際の展示会場とは異なり、時間や人目を気にせずじっくりと作品を鑑賞することができます。また、高精細画像で作品の細部まで拡大して見ることができるのも、電子展覧会ならではの魅力です。

今回の展示では、展示会場では展示スペースの都合で一部分しかご覧にならない、巻物状の資料などの全容も、高精細画像でお楽しみいただけます。



▲電子展覧会 ※写真は過去の電子展覧会の様子



◀電子展覧会へ
アクセス

公開開始時期
令和7年3月

足立区立郷土博物館だより 79号 令和7(2025)年3月発行



ADACHI CITY MUSEUM
足立区立郷土博物館

〒120-0001 東京都足立区大谷田 5-20-1
☎ 03-3620-9393 / e-mail hakubutsukan@city.adachi.tokyo.jp
URL <https://www.city.adachi.tokyo.jp/hakubutsukan/>



知ると分かる、すると変わる。
SDGs MODEL ADACHI

